

ほ場整備地における高収益作物の生産拡大

ねらい

阿南市那賀川町芳崎地域では、基盤整備による生産強化と担い手への農地集積を図るため、平成30年度から農地中間管理機構関連農地整備事業を活用したほ場整備が実施されている。本事業では、高収益作物の生産により販売額を20%向上させることが成果目標とされている。しかし、これまで水稻の単作地であった芳崎地域では、地域の担い手に野菜生産の技術や機械設備がなく、現状では成果目標の達成が困難な状況である。

そこで、地域と関係機関が一体となって、高収益作物の生産拡大に取り組むこととした。

活動地域・対象

活動地域：阿南市那賀川町芳崎地区

普及活動の目標

担い手を中心としたほ場整備地の活用による高収益作物の生産拡大

目標に向けた活動概要

(1) 地域の合意形成

令和4年度に第1工区の工事が完了したことをきっかけに、担い手や芳崎土地改良区、JA東とくしま、農村整備担当、農業支援センターが集まって、事業の成果目標の達成に向けて協議をした。協議の中で、農業支援センターから近隣で野菜栽培の実績がある生産者を地域の担い手として誘致し、芳崎地域での野菜栽培の定着に向けて取り組むことを提案し、関係者の合意が得られた。



図1 協議の様子

(2) 農地の検証

ほ場整備後の農地の状態や作物適正を把握するため、農村整備担当と農業支援センターの若手職員でプロジェクトチームを結成し、現地調査を行った。農地検証マニュアルに基づき、ほ場ごとに土性、土壌硬度、表土厚、断面観察、基盤の石礫の状況について調査するとともに、ほ場の排水性を把握するため、ドローンで降雨後のほ場を上空から撮影し、地表部の色の違いや光の反射の程度から排水性を確認した。



図2 ドローンによる排水性調査

(3) 栽培実証

芳崎地域での野菜栽培の適応性を確認するため、農地の検証で得られたデータを活用してほ場を選定し、水稻後のほ場で栽培実証を行った。野菜生産の担い手として(株)情熱カンパニーが、これまでにキャベツ、ブロッコリー、チンゲン菜を作付けした。実証にあたっては、関係者全員で現地検討会を行い、生育状況と今後の方針を確認した。



図3 現地検討会

普及活動の成果

(1) 農地の検証

ほ場整備後の農地は十分な表土厚があり、水はけの良いほ場が多いことから、約80%のほ場において野菜の栽培が可能であることが明らかになった。

(2) 園芸団地の形成

令和5年度のキャベツの栽培実証の結果、収量5t/10a、収穫率90%、推定販売高は約50万円/10aとなり、収量・品質ともに良好な結果が得られた。令和6～7年度は、野菜の生産面積が拡大し、1haの園芸団地が実現した。



図4 キャベツの栽培実証

(3) 農業法人参画による園芸品目生産モデルの誕生

栽培実証結果やほ場整備事業の成果目標に対して一緒に取り組む姿勢が地域から評価され、(株)情熱カンパニーは1haの農地を任せられる担い手となった。これにより、安定的な担い手の確保と園芸品目の産地化を図る新たな生産モデルとして「芳崎モデル」が誕生した。



図5 地域雇用創出

(4) 地域雇用の創出

(株)情熱カンパニーの参画により、芳崎地域で就労の場が生まれ、これまでに地域住民3名が雇用された。今後も面積の

拡大が見込まれることから、継続的な地域雇用の創出に繋がる取組となっている。

今後の発展方向

阿南管内では芳崎地域を含めた5地域で農地中間管理機構関連農地整備事業を活用したほ場整備が進められており、地域外から担い手を誘致して野菜の生産拡大を図る「芳崎モデル」は、ほ場整備事業の成果目標達成に向けて有効な手段であると考えます。今後も、品種や作型等を検討し、芳崎地域に適した水稲と野菜の輪作体系の確立を目指す。

また、より安定した野菜作付けに向けた周年借地についても地域との協議を進めており、令和8年度からは、期間借地と周年借地を合わせた作付け面積は2.8haへと拡大する見込みである。

引き続き、野菜の生産拡大に向けて地域や関係機関と連携し、担い手の育成や作業の効率化を図りながら、持続可能な産地づくりを進めていく。

関係者からの声

○芳崎地域での野菜生産は難しいと思っていたが、栽培実証を行ってみて野菜の栽培が可能なのことがわかり、事業の成果目標達成への目処がついて安心している。(水稲担い手)

○ほ場整備後の農地でも野菜が栽培できることがわかったので、地域と一緒に面積拡大に向けて取り組んでいきたい。(野菜生産者)

阿南農業支援センター

連絡先：徳島県阿南市富岡町あ王谷46 tel：0884-24-4188